

平成二十四年八月十一日（土）晴

ロンドンオリンピック盛會裡に競技終盤に入り、我が國チームメダル獲得數三十七とアテネ大會に並び、史上最多を記録、残りの種目の結果次第にて最多記録の更新もあり得と云々（本稿書き終るに、米滿達弘選手レスリング^{66kg}級金メダル獲得し、總メダル數三十八となる）。

本大會の競技數は二十六競技、三百二種目と多岐に亙り、メダル數は金、銀、銅併せば九百六に上る。この内に初めて見る種目などあり、メダル獲得、善戦、惜敗の各選手テレビに登場す。メダルに至る道筋様々なるも、多く共通するは幼兒期より始め、以後一貫して練習を重ねたること、並びにコーチの指導宜しきを得たることなり。

而してその爲には、練習の設備、器材、また海外遠征など經濟的負擔も亦大なりと思料せらる。事實今回は政府の補助もかなり廣範圍に亙りたりと言ふも、全國的に人氣あり、競技人口も比較的多き種目に比して、世に知らる、寡き種目は、國や企業の支援も免角後回しとなり、家族の支へにも限りある者も多かんめり。然れども世に知られざる努力の世に益することスポーツに限らずして、その蔭には同じく知られざる篤志家の援助ありて結實することも亦多し。

茲に江戸時代心學の祖、石田梅巖の言葉あり、曰く、天下の財寶を通用して、萬民の心をやすむるなれば、天地四時流行し、萬物育はる、と同じく相合はん。此の如くして富山の如くに至るとも、慾心とは言ふべからずと（都鄙問答）。「商人が（商賣で）得た金錢は天下の財寶であり、これを活用して萬民の安寧に資するならば、これは天地が春夏秋冬を繰返しつ、萬物を生成化育する宇宙の法則に適ふものであり、その結果富が山のやうに大きくならうとも、慾張りと言ふことはできない」

富を得たる者の心得を論じて過不足なく、博く我が國の文化として根付き、特に明治以降或いは學校、病院の基金を寄附し、或いは南極探檢の資金を提供するなどその例多し。戦後も澤田美喜氏の「エリザベスサンダースホーム」を始め、松下幸之助氏の「松下政經塾」などよく知らる。各神社に傳はる文献を集大成せる「神道全集」も亦松下氏の資金にて成るものなり。

一方、これ等個人的資金援助には限りあり、國家による援助もまた不可缺にして、今日殆どの國にてこれらの援助國家豫算による一元化進展し、謂はゆる篤志家の役割減少の傾向にあり。かかる趨勢の中に米國並びに中國はなほ資産家による援助の役割大なるものの如し。

この兩者ともに必要なるは各の資金源と援助の意思決定過程との關係に基く。即ち國家の場合は税金を源泉とし、その配分を決定するは政府なるに對し、個人の場合は自己の私財を自己の意思により援助に醸出するの差ありて、援助の効率を高めむには、夫々の特色を活用せざるべからず。

最近の我が國に於ては、資産家或いは高額所得者に對し、課税の強化をのみ求め、彼らの財寶をして萬民を安んずるに活用せしめむには關心無きが如く、卻つて寄附には高額の特典税を課す。再考すべきにあらずや。